

会 議 録

1 会議名

令和元年度第2回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和元年5月14日（火）午後6時00分から午後8時12分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、青山義一、泉 秀夫、磯田一裕、伊藤邦雄、今川芳夫、久保田幸正、小林克美、坂井芳美、田中美佳、田村雅春、中澤武志、町屋隆之、丸山朝安、水澤敏夫（欠席1名）

- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、千田主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山恭造会長】

- ・挨拶
 - ・会議録の確認：中澤委員、町屋委員に依頼
- 議題【協議事項】地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

・資料No.1「令和元年度 直江津区地域活動支援事業提案書 受付一覧」に基づき説明

【青山恭造会長】

それでは、1件ずつ疑問点等を協議していきたいと思っている。

【竹内副会長】

協議をする前に事務局に確認したいことがある。

「No.4 認知症にやさしい地域づくり in 直江津事業」を行う団体についてだが、昨年度も提案していただいた。

講演を聴きに行ったが、内容が提案内容と全く違っていたように思う。講師も提案時点では仙台からお越しいただくということになっていたが当日は東京の講師から来ていただいていた。また講演会の開始時間も変更になっていた。内容が変更になった場合、地域協議会委員へも報告はしないのか。

提案していただき採択しても、採択時の内容が変更になってしまったら採択した意味がなくなってしまうように思う。今後、変更があった場合、委員へ報告することは可能か。

【滝澤センター長】

連絡が行き届いておらず申し訳なかった。

提案内容に変更が生じた場合、事前に提案者から事務局に連絡していただき、事業の目的等で大幅な変更点があった場合は変更申請書を提出していただくこととなっている。

変更内容によっては委員の皆様へ報告させていただきたいと思っているので、今後注意しながら進めてきたい。

【田村委員】

2点ほど確認したい。全体を見てだが、保険に加入する提案事業がいくつかある。金額がバラバラだが上限は設けていないのか。

もう1点は、見積はいくら以上の場合2社以上から取るのか。

【小池係長】

10万円以上の経費については2社以上の見積書の添付をお願いしている。保険については、事業の内容や人数等によっても違ってくるので、特段基準を設けていない。提案者の方々にお任せしている。

【町屋委員】

提案者の方々にお任せしているというのは分かるが、もし、イベント等に参加している人が事故に遭われた場合、採択した我々としても心が痛む。一方は上限が300万円、一方は上限が1億円という違いがあるのなら、金額が多いほうの保険に入っても良いのではないかと思わないでもない。

皆さんはどう思うか。

【青山恭造会長】

提案内容によって怪我等のリスクは様々なので提案者側が判断してのことだと思うが、事務局として何かあるか。

【滝澤センター長】

事故等が起きた場合、主催者が責任を負うことになる。提案する際に保険会社と話し合いをして決めていると思うが、市としての上限等は特に設けていない。

だが、イベントの実施については、事故が100%起こらないということはない。保険料も補助金の対象となっているので、万が一に備え適正な保険に入ってくださいようアドバイスしている。

【田村委員】

だが、高い保険に入ることも問題である。そこまで支援することはないのではないか。

【町屋委員】

保険に入ることは大事だが、当事業で全てを賄うものではないということを明言しておくことも大事なのかもしれない。

【青山恭造会長】

責任の問題については市できちんと決めていただかなくてはいけないのではないか。

【滝澤センター長】

事務局としても出された意見を自治・地域振興課に伝え、結果を皆様へフィードバックしたいと思う。

【青山恭造会長】

では最初に「No.1 クリーンナップ上越 in 五智事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

提案書の「次年度以降の活動の見通し」に「9年間に亘って本事業を展開してきたが・・・」と記載されている。当事業については今までも、この活動が一部の人の活動になっていないか、全市的に拡げるつもりはないのかと言ってきた。国府小学校の児童から手伝っ

てもらっていると言っても看板制作に関わっているだけである。結局固定した活動になっているように思うが、提案書の次年度以降の見通しでは「参加者の拡大と植栽地域の充実を図っていききたい」と記載されている。何故今年度で反映せず、次年度以降の見通しでこのようなことを言うてしまうのか。提案内容については評価したいと思っているが、地域の拡がりに関して全く考えていないという部分がどうにかならないかと思っている。

【田村委員】

提案書に「今後の活動を見据えて、協賛企業の検討など資金繰りについても検討していきます」とあるが、今まで、どのような検討をしてきたのかということが提案書等を見ても分からない。検討された具体的な内容を示していただきたい。

【磯田委員】

提案者側から言えば、何年も継続して行っていくことは大変なことであり、地域や小学生も巻き込んで行っていくということは非常に大変なことである。その上での評価のポイントとしては「発展性」という共通審査基準があるが、それについては評価が下がるかもしれない。全体的に見て共通審査基準に対して採点していき判断すれば良いのではないか。

【増田副会長】

当事業の主たる目的は、花を植えて綺麗にしようということであり、参加人数を増やして事業を拡大していこうということではないと思っている。努力はしていると思うが、拡大していくことは難しいのではないか。

田村委員の意見については、事務局からまとめてもらい質問すれば良いのではないか。

【町屋委員】

私は当事業に対して反対しているわけではなく、逆に応援したいと思っている。

毎年、実績報告書に活動内容を細かく記載していただいているが、参加人数がかなり少なく、結局一部の人の事業になっているのではないかと感じてしまう。以前は、他団体も参加して行っていたかと思うが、だんだん少なくなってきており、限られた人の事業になってきているということがとても残念であり、もう少し頑張ってもらいたいという思いがあり言わせていただいた。

【青山恭造会長】

次に「No.2 五智公園の整備、有効活用支援事業」について質疑を求める。

【増田副会長】

提案書に「簡単な説明と写真パネルを作成し展示する」とあるが、いつ、どの場所に、
どういうふうな形態で展示するのかが提案書から読み取れないので質問をしてみたいと
思っている。

【小池係長】

交通公園近くの少年野球場の隣に駐車場があるが、その入口に写真を展示するための
看板がある。以前見に行った際も何枚か写真が貼ってあったが、それをいつ更新してい
るのかまでは提案者へ確認していない。

【増田副会長】

年間を通して展示しているのか冬季期間は展示しないのかを含めて質問したいと思う。

【田村委員】

保険についてだが、自分たちの団体に対する保険と参加者に対する保険について別々
に入っている。これはどういうことか。

【町屋委員】

イベントで参加する方々の保険は日にちを指定して入っており、役員の方々は通年で
保険に入ったほうが安いから別々なのではないか。

【丸山委員】

提案団体の会長や副会長は、ほぼ毎日活動をされているため通年で保険に入っている
のだと思う。

そして、展示用看板は2か所あり1か所に6枚ずつ貼り、写真は毎月更新している。
その写真を使ったパンフレットも置いてあり、誰でも持っていけるようになっている。

【田村委員】

保険については、一般の方々でも年間を通して入っているようなので、団体の方々と
同じ保険でも良いのではないか。

【泉委員】

一般が入っている保険は人を固定せず入れる保険で、役員の方々が入っている保険は
人を固定して入っている。

【青山恭造会長】

- ・「No.3 直江津駅前環境美化推進事業」について、質疑等はないので終了とする
次に「No.4 認知症にやさしい地域づくり in 直江津事業」について質疑を求める。

【田村委員】

何故、直江津区なのか。昨年度も同じような質問をさせていただいたが、まだ見えてこない。

そして、提案書に「直江津の企業、商店に協力していただくことで認知症への理解ある企業、商店が増えるよう働きかけます」とあるが、昨年の実績はどうだったのか。今年度の目標はあるのか。提案書だけでは見えてこないので質問をしてみたいと思う。

【小林委員】

当事業は外で走ったり、歩いたりするのに保険に加入していない。これこそ入ったほうが良いのではないか。

【小池係長】

RUN伴というイベント自体は別の団体が新潟県全体で行うので、そちらで入っているのかもしれない。

【田村委員】

新潟県全体ということだが、どのような順路で進んでくるのか。

【町屋委員】

「RUN伴」という活動を広げようという団体があり、その中で趣旨に賛同し「RUN伴新潟」をやろうということになったのだと思う。そして、新潟県内で活動を広げようという中で直江津にいる人たちが活動しようとして手を挙げたということが正しい解釈ではないか。先ほど田村委員が「何故直江津なのか」ということについても、直江津の人たちが手を挙げた活動が直江津のセクションとして盛り上げられているのだろうと思っている。

【泉委員】

RUN伴新潟は全国展開の中の一部だと思っている。事業主体がどのようなことをやっているのか、全体像が見えてこない。RUN伴を主催しているところがあるのではないのか。

【滝澤センター長】

「RUN伴」とは、認知症の方々や家族、地域の方々が一緒に走りタスキをつないでいこうという全国的なイベントである。それに併せて直江津区の地域の皆さんからも認知症の方々を支えていただけるような仕組みを作っていきたいという一環で講演会を行いPRしていきたいという内容である。

当事業については、RUN伴に掛かる経費ではなく、講演会やチラシ作成等に掛かる経費を補助金で賄いたいということである。

【増田副会長】

提案書には「RUN伴新潟2019開催に併せて」と記載されているが、そもそも「RUN伴」とは何なのかという説明がないからRUN伴に併せてやる意味が何なのかということに繋がってくるので「RUN伴新潟とは何ですか」という質問は必要だと思っている。

【小池係長】

昨年度の提案書には添付させていただいた。「RUN伴」とは北海道から沖縄までタスキをつなぎながら縦断するという内容である。詳しいルートまでは分からないが、9月中旬から柏崎・上越エリアに来る予定である。

【増田副会長】

ルートは良いのだが、何を目的にして、どういうふうな計画になっているのかということを確認したい。そして、全国から参加者が来ているようなのでRUN伴新潟の全国における位置づけはどうなのか。そして、直江津区で開催されるという位置づけはどうなのかということが明確にならないと、ただ使われるだけになってしまう。昨年も質問したが、ただ団体のパフォーマンスを行っているだけではないのか、そうならないように気を付けてやっていただきたい。

そして、「2019年度RUN伴PR会」や「RUN伴新潟2019 in 直江津説明会」があったり、報告会も「直江津エリア報告会」、「上越の報告会」があったりして使っている言葉がバラバラである。そこも質問をしようと思っている。

【田村委員】

県が認めている非営利団体なのか。

【泉委員】

RUN伴そのものがどういう団体なのか。

【町屋委員】

RUN伴はそのような団体ではないのではないか。だが、実行委員会を立ち上げて集まってサークル的な活動をされているのではないかと。

【泉委員】

RUN伴の主催者そのものがよく分からない。

【滝澤センター長】

RUN伴自体の事業内容等は昨年度も配付させていただいたが、再度皆様へお示ししたいと思う。

【増田副会長】

支出内の「講師謝礼」に講師の昼食代が含まれているが、Q&Aにはお菓子やお茶代となっている。この解釈はどうすれば良いのか。

【滝澤センター長】

そこは事務局で再度確認させていただく。

【増田副会長】

一般的には食事は出さないということになっている。

もう1点確認したい。講師料として3名分の支出があるが、活動紹介者への謝礼も同額となっている。活動紹介をする方々への謝礼はランクが違うので同額にするのはおかしいのではないか。そこも確認しておいていただきたい。

【竹内副会長】

昨年講演会へ行ったが、そこでグッズ等を販売していた。それは良いのか。

【滝澤センター長】

そこで得た収入は実績報告でも上がってきていないので、どのようにされているのかまでは確認していない。そこは質問票で出しただけであればと思う。

【磯田委員】

販売行為をして良いか、悪いかを質問するのではなく、こちら側から示さなくてはいけないのではないかと。協議会で議論して決めるか、市で指針として出していただくか。

【田村委員】

問題は、提案書や実績報告でそのことについて何も書かれていないということが問題である。

【町屋委員】

そんなに問題なことなのか。例えば講演会へ行くと講師の本が売っているが、それが問題になることはない。RUN伴のTシャツ等もあり、それを購入して着用して参加しているのかもしれないので、そこまで批判しなくても良いのではないかと。

【泉委員】

そもそも我々は「RUN伴」という事業を知らなかった。調べると全国的に展開して

おり、新潟県では魚沼市に事務局がある。だが、我々は「上越オレンジサポーター」へ補助金を出しているのであり、講演会の会場でTシャツ等を買っているとしたらどうなのかという疑問が出てくる。認識不足だったかもしれないが違和感はある。

【滝澤センター長】

事務局から提案者へ事実確認させていただく。それに対し事務局としての見解を示させていただき委員の皆さんへ報告させていただく。

【磯田委員】

提案書に提案者である「上越オレンジサポーター」の事業と「RUN伴実行委員会」の事業が混在しているから不整合みたいなものが見えてくるのではないかと。

提案内容である講演会の話だけだったら分かりやすいのかもしれないが、RUN伴の発表会を絡めているとか報告会や組織のPRを絡めているので伝わりにくいのではないかと。

【町屋委員】

事業を実施している方々を見ると福祉施設の方々が活動をされているのだと思う。RUN伴を調べるとRUN伴の商標は「NPO法人認知症フレンドシップクラブ」という団体が所有しており各地にある。要は、認知症に関わっている人たちが自分たちで行っている団体で、それが上越にはないから福祉施設の方々が横断的に集まって活動しているということは分かるので、そこまで批判することはないのではないかと。

【滝澤センター長】

提案事業に係る収入については、実績報告書にも載せていただかなくては行けないが、例えば施設に入所されている方々が作ったものを販売するという点に関しては、活動の紹介という意味で福祉の拡がりができるということもあるので、全てが駄目だというわけではない。

【青山恭造会長】

次に「No.5 『米作り体験』事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

毎回言わせていただいているが、総事業費13万4,000円の内4万3,000円が飲食材料費である。それを補助事業費から出さなければいけないものなのか。毎年採択されているが、言うことが大事だと思うので今回も質問させていただきたいと思っている。

【青山恭造会長】

次に「No.6 鉄道の町『直江津』発信事業」について質疑を求める。

【田村委員】

ツアーの募集方法についてだが、去年はすぐに定員に達したということだった。どのように募集したのか。

【小池係長】

広報上越と新聞記事に載せたところ、すぐ募集定員に達したと聞いている。

【田村委員】

今年の定員は15名になっており15名が妥当かどうかは分からないが、すぐに達してしまうのではないか。

【磯田委員】

去年も冊子を作っているが、すぐになくなってしまった。今年、500部の増刷となっているが、それが適当なのかを質問させていただきたいと思っている。

【青山恭造会長】

・「No.7 『直江津写真フェア』事業」について質疑を求めるがなし

次に「No.8 第3回ビーチスポーツフェスティバル in 直江津事業」について質疑を求める。

【田村委員】

水上バイクの件で、実施日は8月18日の予定となっており海水浴客もいると思うが、安全対策はどうなっているのか。提案書からは読み取れない。

【泉委員】

水上バイク同士の事故も多いと聞いているので質問票で聞いたほうが良いかもしれない。

【青山恭造会長】

・「No.9 船見公園夕日コンサート2019事業」について質疑を求めるがなし

次に「No.10 『ライオン像のある館』活用事業」について質疑を求める。

【泉委員】

指定管理者制度になっている建物ではないか。

【磯田委員】

指定管理者制度ではなく、LLCまちみらい直江津が管理業務を受託している。

【町屋委員】

いくつか講座が開催され、全ての経費を補助金で賄っているが、受益者負担はないのか。

【磯田委員】

講座に対して無料か受益者負担かということについては、ほかの提案においても同じことだと思っている。それについて明確な判断をするのであれば直江津区の指針として示していただかないと提案する側は困ると思っている。

【町屋委員】

講座があっても提案毎に採択だったり、不採択だったりすることはある。

【磯田委員】

材料費が掛かるものについてはお金を取るという提案内容である。講演会については今まで無料公演を行っていたし、音楽イベントについては、歌声喫茶の場合、歌本を作らなくてはいけないので若干有料にしている。

内容によって対応している。

【町屋委員】

提案書にはそこが出てきていない。内容毎に対応されているなら問題はない。

【青山恭造会長】

次に「No.1 1 直江津まちあるきガイドマップ事業」について質疑を求める。

【田村委員】

提案書に「特殊折」と記載されているが、どのような折り方なのか。

【小池係長】

紙の両端を引っばるだけで簡単にマップを広げることができる折り方である。

【田村委員】

ガイドマップを1万部製作するとなっているが、根拠は何か。

【磯田委員】

最初に5,000部製作させていただいた。それが1年で全て終わっており、その後も増刷させていただいている。

【青山恭造会長】

次に「No.1 2 天王川クリーンナップ大作戦事業」について、昨年度参加して思ったことだが、土砂が大量でスコップだと取りきれない箇所もあった。今年もスコップで行

うのか。

【泉委員】

私も参加して思ったが、機械を入れてお金を掛けてやっても良いのではないか。

【磯田委員】

市民で行える範囲の清掃活動をしようという提案である。担当課との協議で、本来であれば生活排水が流れているので、市が管理すべきものであると市は言っている。

【小林委員】

本来市で行う部分と市民の方々が力を合わせ綺麗にしようという部分の境目が分からない市民もいる。

【青山恭造会長】

海岸清掃と一緒に抑止力を高める要素もある。

【中澤委員】

市民が参加して清掃するというところに大きな意義があり、発展性が高い事業だと思っている。

【青山恭造会長】

次に「No.1 3 〈直江津の歴史・食・人・文化をつなぎ紡ぐ〉事業」について質疑を求める。

【町屋委員】

提案内容が2つ織り込まれているが、別々の事業にしなかったのは事務局からの指導だったのか。

【小池係長】

事業の目的が直江津の歴史・食・人・文化を継承することであり、四十物祭りは福永十三郎の歴史の継承、なおえつものがたりは北前船の歴史の継承を行うため、2つの取組を1つの事業として提案された。

【青山恭造会長】

次に「No.1 4 〈直江津港から元気発信〉事業」について質疑を求める。

【磯田委員】

提案書の支出を見ると「草刈及び土地整備代」とあるが、草刈り等は全て業者が実施するように見受けられる。地域の方々と一緒になって行うという感じではないように思う。

【増田副会長】

確かに磯田委員がおっしゃるように業者に丸投げするように見受けられる。だが、種は自分達で蒔くので、そのことをしっかり提案書に書いていただきたい。「私たちはしっかりと種蒔きとごみ拾いをします。耕運作業と草刈りは広大な土地のため委託に出します」と提案書に書いていただければ良かったのではないかと。

【町屋委員】

そう書いたとしても当事業が是か非かということになる。

【磯田委員】

増田副会長がおっしゃったことは提案書の実施スケジュールに「業者より草刈りと開墾をしてもらう」書いてある。

【青山恭造会長】

では質問で出していただきたい。

【田村委員】

確認だが、菜の花を蒔く遊歩道というのは、どこのことを言っているのか。

【泉委員】

川沿いに道があると思うが、そのことを言っているのではないかと。

【町屋委員】

子ども達と種蒔きをするようだが、対象はどこの子ども達なのかが全く分からず、中身が見えてこない。

【小林委員】

業者に丸投げだとは言いが、約1, 200坪の土地を住民や団体の方々で行おうとしても現実的には難しいと思うので業者をお願いしても良いのではないかと。

【町屋委員】

業者をお願いするのは構わないと思っているが、地域活動支援事業のルールとして全てを丸投げするのは禁止となっており、当提案の支出を見ると業者への委託料と種苗代だけになっていることに問題があるということである。子ども達と一緒に種蒔きをするのであれば提案書に分かるように書き込んでいただければ問題はない。提案書だけを見るとみんなで一緒に汗をかくという部分が見えてこない。

【泉委員】

該当地は1, 200坪もあるのか。

【中澤委員】

質問で聞いてみたら良いのではないかと。

【青山恭造会長】

次に「No.15 寒ブリ祭り事業」について質疑はあるか。

【泉委員】

事務局へのお願いだが、寒ブリ祭り事業が始まった当初、事業の主旨が提案書に書いてあったと思う。直江津港を活性化させようと始めた事業で佐渡観光が人気にならないと直江津港が活性化しないということで始めたかと思う。一昨年までは事業名が「佐渡寒ブリ祭り」となっていたが、昨年「寒ブリ祭り」に変更となっている。そうなるかと本来の主旨から外れてしまうのではないかと。

第1回目に行われた寒ブリ祭りの提案書があればいただきたい。

【滝澤センター長】

文書の保存期限が過ぎているため、質問で出していきたい。

【町屋委員】

提案書に事業目的をきちんと書いていただいているが、提案の中身を見ると物販イベントとしてしか見えないのは残念に思っている。物販イベントが悪いというわけではなく、物品のための費用を補助金から出すというのは、あまりにも事業として成り立っていないのではないかと。会場の設営費だけを補助金で賄い、あとはテナント料をいただいたりして、物販は自己責任で行っていただいたほうが分かりやすい。アンコウの吊るし切りを行うのは、たくさんの人に来てもらうためには良いことだと思う。それに関しては人を集めたいという目的があってやることだが、人集めで結局赤字になり、誰が補てんするのかとなったら、普通は販売業者がお金を出し合って補てんをするものなので、そのお金を全て補助金から出すというのは、私は納得できない。

【青山恭造会長】

では次に「No.16 上杉謙信公の城下町 文豪の町直江津にぎわい事業」について質疑を求めます。

【田村委員】

看板の設置個所は松が植えてある植え込み内に設置するということだが、松は枯れないのか。歩道に看板を立てるとか、もう少し離すとかはできないのか。

【磯田委員】

該当地の所有者である県と事前打合わせはしてあるのか。

【小池係長】

県とは協議済みであり、了承は得ているとのこと。許可書までは確認していないが、道路の占有申請書は県へ提出したと聞いている。

【青山恭造会長】

植え込みの件は質問票で出していきたい。

【磯田委員】

事業名に「上杉謙信公の城下町」とあるが、直江津は上杉謙信公の城下町なのかと単純に思ってしまった。そして、企画内容がぼんやりとしていてよく分からない。

【泉委員】

謙信公は直江津区だと思わない。何故直江津なのか。

【田村委員】

設置場所が加賀町なので直江津区に申請したのではないか。

【町屋委員】

上杉謙信と加賀街道は時代的にもずれており、不自然な感じで書かれているから、そもそも何なのかという感じになっている。

【青山恭造会長】

質問で「加賀街道は上杉謙信公ではないのではないか」という質問を出していきたい。

【丸山委員】

だが、該当地は上杉謙信公が戦った場所である。なので問題はないのではないか。

【町屋委員】

提案書の事業内容に「加州大聖寺藩参勤交代うおーく2019にあたり看板を立てたい」と記載されているが、そうであればなおさら事実誤認みたいなことは恥ずかしいから、そこはきちんとしていただきたい。

【磯田委員】

もともと該当地に一里塚があったかどうか分からない。

【丸山委員】

提案書を見て町内の方々と話してみたが、該当地に一里塚はなかったとのこと。

【磯田委員】

一里塚がなかったとしたら、解説看板に「一里塚跡」と記載して良いものなのか。

【青山恭造会長】

提案書に標柱のイメージ図が載っているが、そこに「上越市」と記載されている。上越市で立てた看板だと思われる可能性がある。上越市は認めているのか。

【町屋委員】

どこを基点にして「一里」と言っているのかも分からない。

【青山恭造会長】

それは質問票で出していきたいと思う。

以上で全体協議を終了とする。

次に事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いする。

【滝澤センター長】

今後のスケジュールを説明する前に全体協議内で出てきた質問がいくつかあった。それが委員個人の質問として出されたものであるもので、地域協議会としての質問を精査していただき提案者へ送付したいと思う。

【田中委員】

昨年度は質問票を提出する際、協議会で出た質問以外で疑問に思ったことを書いて提出するということがあった。今年も同じようにやるのか。

【滝澤センター長】

確かに昨年はそのように進めさせていただいたが、今回も同じように進めるかは皆さんから決めていただくことになる。

【磯田委員】

各委員の質問を事務局で集約して提案者へ送るとするのは難しいかもしれず、同じような質問でもニュアンスが少しずれてしまうかもしれないので、質問がある人は全部をまとめて出すほうが良いのではないかと。

【滝澤センター長】

個々に質問を出して事務局で整理するということがよろしいか。

(異議なし)

承知した。

【泉委員】

地域活動支援事業が始まって10年が経ち、事業開始当初から提案しているのが「ク

リーンナップ上越 i n 五智事業」と「寒ブリ祭り」である。「クリーンナップ上越 i n 五智事業」の場合、販売等は行っておらず、全てを補助金で賄っていると思う。一方「寒ブリ祭り」は販売をしており、売上金等を使って自立してくださいというようなアプローチをしていると思う。事業費も昔と比べると低くなってきていると思うが、どこまで応援するのか。本来の寒ブリ祭りの主旨とは違う所に行かざるを得ないような気がする。

継続している2つの事業があるが、一方はもう少しうまくやっていただければ自立してしっかりとしたものになるかもしれないが、一方は補助金がなくなってしまったら何もできなくなってしまうのではないかと感じてしまう。

【町屋委員】

昔は「佐渡との交流」という部分があり、その一環として佐渡寒ブリ祭りを行ってきたのだと思う。だが、我々が「経費が高いのではないか」という意見を多数出したから「佐渡寒ブリ祭り」から「寒ブリ祭り」にしたということだが、それを望んだわけではなく、終始一貫言っているのは、無料で配ってお客さんが来て活性化したと言われても、こちらとしては何が良いのかよく分からない。

【泉委員】

毎年採択はされているが、皆さん相当悩んで採点されていると思う。本来であれば、自立することが望ましい。

【町屋委員】

仕入れた材料費と同じ金額で販売すれば良いと思うが、主催者側がそれを安価で販売している。

【田村委員】

町屋委員と考えは同じで仕入れで掛かった材料費分はお客さんからいただき、会場設営費や宣伝費に掛かった経費は当事業を使えば良いのではないかと考えている。

【磯田委員】

皆さんが悩んで採点し、採択にはなっているけど、全てを不採択にしてしまうと、こういったイベントが出来なくなってしまうということも事実である。継続しているということに価値はなくはない。では、どのように団体に成長してもらおうかとなると質問や質疑ということではなく、ヒアリング等の場面もないので直接団体の方々と話す場もない。そうであればその場を作らなければいけないのではないかと。

【丸山委員】

主催者側としては来た人へお徳感を与えて人を集めたいという一点なのではないか。

【町屋委員】

事業の内容がそうになっているから、そうせざるを得ない。学びの場があるわけでもない。人が集まったことが事業の達成率になってしまっている。

【増田副会長】

提案者からの回答を見て再度全体協議を行うので、その場で十分協議をすれば良いのではないか。材料費分だけ不採択にすることも可能ではあると思うので皆さんで考えていきたい。

【田村委員】

材料費分だけを不採択にして採択するということは今までやってきてないのではないか。

【磯田委員】

附帯条件付きの採択は過去にあった。

【町屋委員】

だが、材料費分だけ不採択にしたら事業自体が成り立たない。そうならないよう提案者側で検討していただきたい。

【増田副会長】

今までの質問を見ていると、細かい背景もあるので、私たちはこう考えているけど、どうにかありませんか、というような文章で出すということが良いのではないか。

今までの回答を見ていると意図的に回答をずらしている団体もあるし、すごく丁寧に提案側の思いを伝えてきている団体もある。最近は丁寧な回答をしていただけるようになってきて提案者との意思疎通が出来るようになってきていると思う。

【青山恭造会長】

事務局は何かあるか。

【小池係長】

質問について、先ほど個人で質問を出してほしいということだったが、本日出された質問についてまとめたので確認させていただきたい。

- ・提案毎に質問を確認

【青山恭造会長】

以上で協議事項は終了とする。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・今後のスケジュールを説明
- ・次回の協議会：6月4日（火）午後6時から

【青山恭造会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。